

木材ニュースレター

(財)日本木材総合情報センター
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(21年9月分)

1. 調査実施期間 平成21年 8月20日 ～9月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

9月分の回答企業数は43社、回収率は91.5%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		21/9月	10月	11月
仕入動向	国産材	△ 10.3	△ 7.4	△ 7.6
	外材	△ 6.1	△ 8.5	△ 11.3
販売動向	国産材	△ 10.3	△ 5.9	△ 4.5
	外材	△ 4.9	0.0	△ 2.5
在庫動向	国産材	△ 11.3	△ 11.3	△ 8.3
	外材	△ 6.1	△ 14.6	△ 11.3

仕入は、国産材マイナスほぼ横ばい、また外材はマイナス拡大して秋需の期待薄れている。

販売も国産材、外材とも同様にマイナスを着実に縮めるが、一気の回復勢いではない。

在庫は国産材がほぼ横ばい、外材はマイナスがやや拡大して厳しい状況。

荷動き動向は全ての項目でゼロないしマイナスと、前月漸く回復気配であった先行きへの期待を失くしている。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	21/9月	10月	11月
スギ正角(グリーン)	△ 6.0	0.0	2.1
スギ正角(KD)	△ 1.9	1.9	2.0
ヒノキ正角	△ 1.9	3.8	2.0
ヒノキ土台角	0.0	4.0	0.0
米ツガ正角(現地挽)	0.0	3.8	0.0
米ツガ防腐土台角	△ 1.9	△ 1.9	0.0
米ツガ割物(現地挽)	3.8	5.8	2.0
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 2.0	4.0	0.0
ホワイトウッド集成管柱	16.0	12.5	2.1
レッドウッド集成平角	5.0	7.5	2.5
型枠合板(国産)	19.4	22.2	5.6
型枠合板(輸入)	20.5	18.2	4.8
針葉樹合板	35.7	26.2	7.5

スギ正角(グリーン、KD)、ヒノキ正角、土台とも先行きゼロないし小幅プラスと漸く確実な好調さ出てきた。

米ツガ正角、防腐土台角、平割もゼロないし小幅プラスと好調続く。米マツ平角は±0で気配に変化なし。北洋材アカマツタルキは、小さなマイナスからゼロで変わらず。

WW集成管柱、RW集成平角とも先行きのプラス幅縮まり、好調から本格化への道のり遠い。

型枠合板、針葉樹合板とも大きなプラスを一気に縮めるが引き続き強含みに変わらない。

1. 荷動き		コメント
仕入動向		米マツ一般材丸太では、米国材輸出価は森林火災の影響も少ない事から、8月積みも値上げするまでの勢いはなく、据え置き模様。カナダ材も米国材追従ながら日本向け数量が揃わないことから、多少強含みとなっている。秋以降産地では、中国向けの米マツ下級材への引合いが増加している事から日本向け数量は益々絞られると思われる。(東京:米材問屋)
		8月に少量入荷したが、市場を満足させる程ではない。(東京:米材問屋)
		先月同様、各社在庫を減らしており、入荷は少ない。(東京:南洋・中国材問屋)
		現状は当用買いに徹す。(東京:外材集成材問屋)
		スポット買いは止めた。(東京:南洋材問屋)
		在庫が少なくなれば買っても良い。仕入れは慌てない。(東京:外材問屋)
		構造材不振、羽柄もかげり。(東京:国産材問屋)
		産地の日本への売り込みは殆ど無し。産地価格は中国中心に進められている。(東京:南洋・中国材問屋)
		新材が出たら仕入れを増加させる。(東京:国産材問屋)
		トラック便の荷が集まらないので注文材(小口)の納期が読めない。(東京:国産材問屋)
販売動向		スギ柱角は相変わらず品薄だが、売れ行きも良くないので辛うじてバランスが取れている。(東京:国産材問屋)
		休みが多く商売暇。仕入れは必要以外極力控えている。(東京:国産材問屋)
		北欧材の割物の一部に品薄のものが出ている。価格はほぼ横ばいからやや値上がり。ヒノキの出材がやや少なく品薄。価格もやや上昇。某大手ハウスメーカー仕様のKDヒノキ土台やや値上がりか？(東海:外材問屋)
		製品は出品も少ないが売れ行きも悪い。(東海:国産材問屋)
		必要材を必要量だけ仕入れ、納品して完了。その他の在庫のための仕入れは見当つかず。(東京:仲買小売)
		アカマツグリーン材内地挽きが無くなるため、大量に確保。(大阪:仲買小売)
		京浜マーケットでは、内陸製材メーカーに回復の兆しが見られず、小手メーカーの廃業が後を絶たない。問屋も新規開店がまったく出来ないため商圏拡大も進まない。(東京:米材問屋)
		北欧材の販売量は増えている。米材は変わらず。(東京:米材問屋)
		徹底した当用買いは相変わらずだが、入荷した材は順調に売れている。(東京:米材問屋)
		盆明けから徐々に受注量が増えては来たが、価格は依然として低いまま。急ぎが多く加工が間に合わない。(東京:南洋材問屋)
在庫動向		休みが多かった割には仕事があり、先月同様の売上だった。(東京:南洋・中国材問屋)
		8月が夏休み特需(学校関係)で良かったので、今月は落ち込みそう。(東京:南洋材問屋)
		需要期に入っているが見積もりも少ない。(東京:国産材問屋)
		8月より荷は動くと思われる。(東京:国産材問屋)
		どこの現場も予算が無く、見積りの見直しを要求される。(東京:国産材問屋)
		外材は付加価値が付かず難しい。(東京:特殊材問屋)
		売りは底這いのまま。(東京:国産材問屋)
		構造材は動かない。細かい注文材のみ。(東京:国産材問屋)
		年内の内以最盛期の入口にも関わらず、荷動き悪く先の見通しが立たないので在庫意欲がゼロに等しい。(東京:国産材問屋)
		ヒノキ・スギ柱角、並材、役物も全く売れず。(東海:国産材問屋)
2. 価格動向		荷動き落ち込んだまま。低迷状態で変わらず。(東京:仲買小売)
		例年は9月から忙しくなるが、今年は非常に荷動き悪く、この様な悪い9月は今年が初めて。(東海:仲買小売)
		少し新築が動いてきた様子。ただ見積価格が大変厳しい。利幅を少なくしないと見積りを取れない状況。(大阪:仲買小売)
		問屋は依然として米マツ丸太の手持ち在庫を大量に抱えており、保管料負担が重荷となって来ている。(東京:米材問屋)
		若干増えたが、月末には又減少の見込みである。(東京:米材問屋)
		現状の在庫数量を維持する予定。(東京:国産材問屋)
		入・出荷のバランスは取れている。(東京:南洋・中国材問屋)
		相変わらず欠品が目立つ。(東京:南洋・中国材問屋)
		仕入れを控えているが需要も少ないため変動なし。産地の原木少ないため在庫調整。(東京:国産材問屋)
		売れ行き不振。在庫を処分して身軽になるしかない。(東京:仲買小売)
スギ正角	産地は値上げをしたいが需要が少ないため中々難しい。(東京:問屋)	
ヒノキ正角	新材丸太、ヒノキを中心に値上がり。(東京:問屋)	
土台角	KD土台やや上昇か？(東海:問屋)	
米ツガ	川上では原木丸太がやや強気のようなのだが、川下では需要不振でスギ・ヒノキとも動かず。(東京:仲買小売)	
米マツ平角	価格は強含み据え置き。来月は上げ。(東京:米材問屋)	
	米マツとも特に変化なし。(東海:問屋)	
北洋アカマツタルキ	輸入量少ないが需要不振で価格横ばい。(東京:仲買小売)	
WW・RW集成材	以前は売れ筋商品だったが現在は殆ど動かない。(東京:仲買小売)	
合板	変化なし。(東海:外材問屋)	
	入荷・品の不安定さが難点。需要が回復したとき対応が可能なのか？(東京:仲買小売)	
	川上は値上げしたい。仕事出れば確実に上がる。(東京:問屋)	
	メーカーが値上げ打診。今は難しい。(東京:問屋)	
	国内メーカーは少々値上げムードだが、需給のバランスでどうなるか？(東海:外材問屋)	
	針葉樹合板、少々値戻し。(東海:外材問屋)	
	合板相場不安定。(東京:仲買小売)	
	メーカーの極端な減産による在庫調整のため動きはないが値は強気。それでも仕入れ意欲なし。(東京:仲買小売)	
	メーカーや問屋は強気だが需要が伴うのか？下げ過ぎた面、値戻しは必至。(大阪:仲買小売)	